

校長室だより

12月号②

二十四節季では大雪（たいせつ：今年は12/7）をむかえ、寒さが身にしみる季節となりました。これからは陽がさらに短くなり寒さを増し、冬が深まってきます。このような中、子どもたちは12月9日の校内持久走大会にむけて、自分の目標をもち朝のかけ足に取り組んできました。その成果を本番でも十分発揮できたように思います。運・不運があり、中には当日自分が納得できるような記録が残せなかった人もいるかもしれませんが、これまで目標に向かって努力してきたことが大切なのです。みんな、よくがんばりました。

参加者全員、無事完走！

子どもたちが、いっしょけんめい校区内のコースを走りました。事前に試走はしていますが、やはり学校から出て走るの心配なものです。保護者・地域のみなさんの応援に励まされながら、全員無事完走することができました。ありがとうございました。わたしは中学・高校と陸上（長距離）をしていました。記録会やロードレースのスタートラインに立つたびに、（出んかったらよかった）と思うことしばしば。しかし、力を出し切り走り終わった後の爽快感・充実感をいつも感じていました。

（時には悔しさや情けなさもありましたが・・・）いっしょけんめい走りきった子どもたちは、どんなことを感じ、どんなことを思ったのでしょうか。お子さんにきいてみてください。そして、がんばったことをほめてあげてください。



低学年：約 900m 中学年：約 1500m
高学年：約 2000m

人権・同和問題学習発表会への感想・ご意見、ありがとうございました

11月29日の人権・同和問題学習発表会に対する感想・ご意見をたくさんいただき、ありがとうございます。保護者のみなさんへ、子どもたちからのメッセージが伝わったことをうれしく思います。寄せられた感想をいくつか紹介させていただきます。

- 劇を通じて、子どもでもわかりやすく友達・仲間の大切さを学ぶことができよかったと思う。これからも困ったときには助け合える仲間であってほしい。
- 劇の練習が始まってから、家で「思いやり」の話を何回か子どもから聞きました。一つのものにクラス全員で取り組むということはとても大切なことだと今回の発表会で感じました。
- この発表会を通して、子どもも大人も大切なことを再確認することができると思っています。ただ、発表会だけ良い子では困ります。差別やいじめはしてはいけないということを学校だけではなく、もっと家庭でも指導していかなければと思いました。
- それぞれの学年でいろいろな立場からさまざまな思いがあることを感じました。相手を思いやる優しさ、自分がうれしかったことをまわりの人にもしてあげたいということが発表の中で上手に表現できていて、心があたたかくなりました。
- 発表会をみて、西麻植小の子どもたちはみんな仲良く友達を大切にできると思いました。私たち大人も、子どものお手本となるような行動を心がけないと再確認しました。
- 家族で折り鶴を折っていると、祖母も「ばあちゃんも折るけん広島に届けてよ」と鶴を1枚1枚折ってくれました。家族の戦争で亡くなった方への思い、広島での語り部さんの話を子どもなりに受け止め、感じた思いや願いを発表会で表現できていました。